

評価委員総合評価

研究課題名：(若手研究) エンベロープを利用した同時発生する地震に対応した震源決定の試み

評価委員

委員長：高野清治

委員：齊藤和雄、竹内義明、水野孝則、小泉耕、尾瀬智昭、高野功、高薮出、
鈴木修、前田憲二、山里平、倉賀野連、岡部来

評価日：平成 29 年 3 月 3 日 (書面開催)

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

エンベロープを利用した同時発生する地震に対応した震源決定について理論エンベロープ計算プログラムを作成した。科研費提案については先行研究があったため別の手法で応募することになったことに関しては、提案時の事前調査が不十分だった可能性がある。理論エンベロープ計算プログラムについては今後重点研究で活用できる可能性があり、研究を実施した意義は十分にあったと思われる。

先行研究の調査を元に、異なる研究手法を考案し、科研費応募につなげたのは若手研究の趣旨を踏まえた良い判断だった。

理論エンベロープ計算プログラムを作成できたことは評価できる。地震波のエンベロープ波形計算プログラムは、多様な地震動の解析に幅広く応用可能と考える。部内共有のプログラムなどとして今後の研究に利用してもらいたい。

本研究は当初想定していた成果は得られなかったが、一定の成果が得られており、また、研究目標の設定はある程度適切、研究体制についてはある程度適切であったと判断できる。

一方、以下のような指摘事項もあり、後年度の他研究等に活かすことを期待する。

- ・これまでの知見のレビューがしっかりなされている必要があると考える。